

〈木曽三川流域エコネット応援団〉には、現在 59 団体に参加をいただいています。

〈木曽三川流域エコネット応援団〉のメンバー一覧（平成 29 年 3 月現在，一部手続き中）

団体名		団体名	
市民団体等	一般社団法人 ClearWaterProject	学校等	神戸町立南平野小学校
	ビオトープネットワーク中部		羽島市立足近小学校
	NPO 法人森と水辺の技術研究会		羽島市立小熊小学校
	トンボ池を守る会		羽島市立正木小学校
	東海タナゴ研究会		羽島市立中央小学校
	はりんこネットワーク		羽島市立福寿小学校
	西之川ハリヨ保存会		羽島市立竹鼻小学校
	加賀野名水保存会		羽島市立堀津小学校
	曽根町ハリヨ・ホタル保存会		羽島市立中島小学校
	池田町ハリヨを守る会		羽島市立羽島中学校
	表佐ハリヨ・ホタル保存会		羽島市立竹鼻中学校
	尾張北部生態系ネットワーク協議会		羽島市立中央中学校
	尾張西部生態系ネットワーク協議会		羽島市立中島中学校
企 業	大垣環境市民会議	行 政	羽島市立桑原学園
	三井住友信託銀行株式会社一宮支店		愛知県
	株式会社十六銀行		岐阜県
	生活協同組合コープぎふ		一宮市
	中部電力株式会社		岐阜市
	世界淡水魚水族館アクア・トトぎふ		大垣市
	株式会社フォーラムホテル		羽島市
	中日本冰糖株式会社		瑞穂市
	株式会社大垣共立銀行		海津市
	日本合成化学工業株式会社		養老町
	サンメッセ株式会社		輪之内町
	生活協同組合コープあいち		垂井町
			池田町
学校等	岐阜経済大学		神戸町教育委員会
	岐阜県立大垣東高校理数科ハリヨ班		農林水産省東海農政局
	岐阜県立岐阜高等学校自然科学部生物班		農村振興部農村環境課
	愛知県立木曽川高等学校		環境省中部地方環境事務所野生生物課
	一宮市立尾西第一中学校		

発行 2017 年 3 月 1 日



木曽三川流域エコネット応援団とは
「木曽三川流域生態系ネットワーク」に取り組む団体や、取り組みに賛同する団体に参加していただいています。
各団体の取り組みやイベント等の情報を共有するとともに、団体間の交流や協働を促進することを目的としています。

▲
海津市と養老町にまたがる下池地域では、東海タナゴ研究会と地元の下池地域農地・水・環境保全管理組合の協力により、池干し体験が行われています。

目 次

木曽三川流域生態系ネットワーク	2
イタセンパラをシンボルにした取り組み（氾濫原エリア）	4
ハリヨをシンボルにした取り組み（湧水帯エリア）	6
木曽三川流域エコネット応援団	8

発 行：国土交通省 中部地方整備局 木曽川上流河川事務所 河川環境課
cbr-kisojyo@mlit.go.jp / tel 058-251-1321 / fax 058-251-4301
URL http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/
編 集：公益財団法人日本生態系協会

木曽三川流域生態系ネットワーク

木曽三川流域生態系ネットワークは、流域の多くの人や団体が協力して進める、生きものと共に心豊かに暮らす地域をつくる取り組みです。

次の3つを基本方針として取り組みを進めています。

基本方針

川から地域に自然を広げる
自然を活かして、地域の魅力と活力を高める
人と人、人と自然の絆を深める

対象区域

将来的には、木曽川、長良川、揖斐川とそのすべての流域を対象とします。当初の取り組みは、木曽川上流河川事務所管内の河川とそこに隣接する市町から始めます。

当面の対象区域

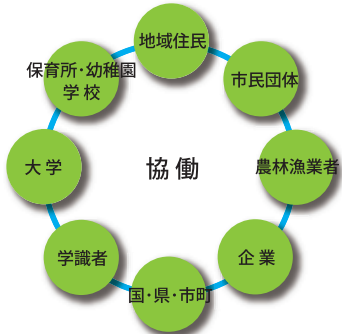
岐阜県		愛知県
岐阜市	岐阜町	一宮市
大垣市	笠松町	犬山市
関市	養老町	江南市
羽島市	垂井町	稲沢市
美濃加茂市	神戸町	扶桑町
各務原市	輪之内町	
可児市	安八町	
瑞穂市	揖斐川町	
本巣市	大野町	
海津市	池田町	
	北方町	
	坂祝町	



当面の対象区域

協働による推進

「木曽三川流域生態系ネットワーク」は、流域に暮らし、活動する多くの人や組織に参加を得て、それぞれの得意分野で力を発揮していただきながら、お互いに協力して進めることを目指しています。



4つのエリアとシンボルとなる生きもの

具体的な取り組みを進めるために4つのエリアを設定しています。それぞれ、シンボルとなる生きものを設定して、具体的な取り組みを進めていきます。これまでに「氾濫原エリア」「湧水帯エリア」で、それぞれ「イタセンパラ」と「ハリヨ」をシンボルとした取り組みが行われています。



エリアの設定

扇状地エリア

目標環境

砂礫河原や砂礫の瀬等



氾濫原エリア

目標環境

川のワンドやたまり、池沼、昔ながらの水田・水路等



湧水帯エリア

目標環境

ガマと呼ばれる湧水点や、湧水池、湧水河川等



本川・支川エリア

目標環境

魚道の設置や落差の解消等による本川・支川のつながり



イタセンパラ

イタセンパラ（コイ科タナゴ亜科）は、二枚貝に産卵する日本固有のタナゴ類の1種です。分布は濃尾平野を含む国内3地域に限られ、いずれの地域においても絶滅が危惧されており、文化財保護法で国の天然記念物に指定されているほか、種の保存法の国内希少野生動植物種、環境省のレッドリストの絶滅危惧ⅠA類に指定されています。

かつては広く生息していたと考えられる濃尾平野の中でも、現在の確認箇所は、木曽川中流部のごく一部のワンドに限られています。



応援団メンバーの活動

愛知県立木曽川高等学校

平成27年7月に環境省中部地方環境事務所より、イタセンパラの飼育・展示の許可を受け、玄関に設置した水槽でイタセンパラの飼育・展示を始めました。平成28年度も継続して飼育・展示を行ない、生徒が自主的に、毎日の餌やりと2週に1回の水槽の清掃・水替えを輪番制で行っています。

今年度は、イタセンパラの広報活動として、パトロール活動への参加、地元の「あじさいまつり」や「びさいまつり」でのアンケート調査やクリアファイルの配布、オリジナル缶バッジの制作と配布、FM一宮ラジオへの出演をしました。また、9月には、日本魚類学会年会岐阜大会の高校生部門でイタセンパラについて発表し、優秀賞を受賞することができました。



平成28年5月7日 木曽川イタセンパラ保護協議会主催パトロール活動に参加



平成28年9月24日 日本魚類学会年会 高校生研究発表においてイタセンパラについての発表

羽島市

羽島市では、岐阜県からの声かけをきっかけに、平成27年より環境省、文化庁、岐阜県の協力のもと市立図書館の入口に水槽を設置し、イタセンパラの生体展示を始めました。展示を始めたところ、訪問客から昔は羽島市内の用水路でも見ることができた、との話が聞かれるようになっていきます。

平成28年からは、木曽川の正木地区でのワンド整備事業をきっかけに、正木小学校でも泳ぐイタセンパラを展示したいとの要望が高まり、飼育・展示に取り組んでいます。正木小学校では、イタセンパラが縁となり、同じくイタセンパラの飼育・展示に取り組む、対岸の愛知県立木曽川高等学校のお兄さん、お姉さんたちとの交流も始まりました。

羽島市は、今後も生体展示を続けていく予定です。



図書館入口にてイタセンパラの水槽を公開

三井住友信託銀行 一宮支店

「三井住友信託銀行」を含む「三井住友トラスト・ホールディングス」では、サステナビリティ方針の1つとして生物多様性保全行動指針を制定しています。これを受けて三井住友信託銀行では「環境・生きもの応援活動」として生物多様性の保全に取り組み、全国の支店でも様々な取り組みを行っています。

JR一宮駅前に立地する一宮支店では、天然記念物であり地域に生息するイタセンパラに関心を持ち、店舗ロビーでイタセンパラに関するパネル展示を2回実施したほか、平成28年には、イタセンパラの生体展示を始めました。店舗のロビー内に水槽が設置され、どなたでもイタセンパラを見ることができるよう公開されています。



店舗ロビーでの生体展示（上）とパネル展示（下）

一宮市教育委員会（一宮市尾西歴史民俗資料館）

一宮市尾西歴史民俗資料館において、環境省が保護増殖しているイタセンパラを展示し、実際に泳いでいる姿を目にすることによって、近隣に暮らす市民のみなさんや来館者に身近に感じてもらっています。

水槽の水替え作業については、愛知県立木曽川高校の生徒のみなさんにもお手伝いいただいています。



展示場所



木曽川高校のみなさんによる水槽の水替えと清掃

東海タナゴ研究会

東海タナゴ研究会は、ため池や水路等、田んぼのそばで生き残ってきた淡水魚「タナゴ」を主な対象として、「タナゴの棲むふるさと」づくり等の身近な生物多様性保全活動を行っている団体です。

海津市と養老町にまたがる下池地域では、東海タナゴ研究会と地元の池田地域農地・水・環境保全管理組合が協力して、下池ピオトープでの池干し体験の実施や水田魚道の設置、定期的な生き物調査や観察会等を実施しています。また、生物多様性保全米として「本当に魚を増やしている田んぼのお米」を生産し、道の駅等で販売しています。

下池地域は、平成20年までイタセンパラの生息が確認されていました。岐阜県内でも最も魚の種類が豊かな場所の1つである、下池地域にイタセンパラが棲める環境を取り戻していきたいとの想いを持って活動しています。



ハリヨ

ハリヨ（トゲウオ目トゲウオ科）は、全長5～7 cm 程度になる魚です。年間を通じて水温が 15 度前後で安定した湧水池や、その周辺の流れの緩やかな河川に生息します。オスが水草等を材料にしてトンネル状の巣をつくり、繁殖することが知られています。岐阜県の西濃地域と滋賀県の東部だけに分布します。

ハリヨは、環境省レッドリストで、絶滅危惧ⅠA類に指定されています。また、ハリヨが生息する津屋川の清水池周辺は「津屋川水系清水池ハリヨ生息地」として国の天然記念物に指定されています。



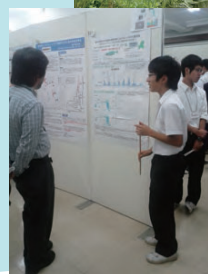
応援団メンバーの活動

岐阜県立大垣東高等学校

大垣市の水環境のシンボルとして市の魚に指定されている「ふるさとの魚」ハリヨ。そんなハリヨについての調査活動を県立大垣東高校では理数科の課題研究として取り組んでいます。理数科では、岐阜経済大学の森誠一教授の指導のもと、平成 18 年より、国内最大級のハリヨ生息地である清水池（国天然記念物指定地・津屋川）をフィールドにハリヨの個体数調査や生息環境の変化等について現地調査を行っています。また、発表会の開催やリーフレットの配布等を通じて地域住民へのハリヨについての普及・啓発にも取り組んでいます。平成 28 年には、岐阜大学で開催された日本魚類学会年会以て津屋川の津屋地区におけるハリヨの生態調査や清水池におけるハリヨと巣の関係性等についてポスター発表を行いました。



清水池での調査



魚類学会でのポスター発表

地域住民によるハリヨの保護活動

ハリヨは水温の安定した湧水等に生息する魚です。そして湧水は、地域の生活を支える貴重な水資源でもあります。西濃地域では、湧水は生活用水として現在も使われています。

大垣市、津屋川、池田町、垂井町等の西濃地域のハリヨの生息地では、地元住民や自治会が中心となってハリヨ保存会や守る会が組織されています。これらの組織では、ハリヨの生息状況の調査や、汚泥や水草の取り除き等の生息場所の環境管理等を行っています。また、企業が取り組んでいるハリヨ保護への助言や、小学校での勉強会の開催や高校との合同調査に取り組む等、活動の幅を広げています。



地元保存会による小学生を対象とした学習支援

はりんこネットワーク

平成 3 年に地域の団体や研究者・教育者・企業・個人等で、「はりんこネットワーク」を結成しました。各地でハリヨの保護活動を進めるとともに、シンポジウムやフォーラム、イベントの開催を通して普及啓発を行っています。平成 23 年 3 月には、はりんこネットワークの設立 20 周年を記念して、記念誌「ふるさとの魚 ハリヨ」と DVD を発行し、これまでの歩みのほか、岐阜県内及び滋賀県でハリヨの保全に取り組んでいる団体等を紹介しています。

池田町ハリヨを守る会、南濃町ハリヨ保存会、長沢ハリヨ保存会、伊自良ハリヨ保存会、本巣町ハリヨ保存会、西之川ハリヨ保存会、加賀野名水保存会、曽根町ハリヨ・ホテル保存会、華溪寺、南平野小学校、小野小学校、広幡小学校、宝林保育園、まこと幼稚園、大垣フォーラムホテル、日本合成化学、サンメッセ、河川環境楽園、川合さく泉工業株式会社等と連携して活動しています。



工場敷地内のハリヨ池

中日本冰糖株式会社

中日本冰糖株式会社では、20 年前に NHK「生きもの地球紀行」に南濃町のハリヨが登場したことをきっかけとして、岐阜県津屋川南濃町にある梅園内に入る湧水を利用して、ハリヨ池をつくりました。ハリヨが生育できる環境を整備し、定期的な除草等を継続してハリヨを保護しています。平成 23 年には NHK「ダーウィンが来た」でハリヨの番組製作に生息地の提供等で協力し、10 年程前からは大垣東高校のハリヨの定期生態調査にも協力しています。

津屋川オオフサモ対策検討会（事務局：岐阜県大垣土木事務所河川砂防課）

津屋川及び養老町内の一級河川津屋川の上中流部において、特定外来生物のオオフサモが大量繁殖し、そこに生息・生育しているハリヨやナガエミクリ等の絶滅危惧種への悪影響の他、洪水時の流下阻害が懸念されていました。そこで、平成 19 年度から 24 年度まで河川管理者の他、有識者、行政機関、漁業協同組合及び地元住民等で組織する「オオフサモ対策検討会」を立ち上げ、対策について検討を行いました。平成 19 年以降、岐阜県大垣土木事務所がオオフサモ分布調査を年 2 回行い、除去作業を実施しています。また、平成 23 年以降は、県立大垣東高校生徒が定期的にハリヨ池周辺のオオフサモ等除去作業を実施しています。



津屋川でのオオフサモの除去